

関西学院大学 ライティングセンター

特集：ライティングチューター座談会（後編）

- 学部生の文章の支援アプローチについてより詳しくご紹介します
- ライティングセンターで可能な個別支援についてより詳しくご紹介します
- 「FD研修」や「授業への出張講座」で扱っている内容についてもご紹介します

座談会（前編）は
Vol.4にて
公開しています



本ニュースレターでは、ライティングセンターで学部生の支援にあたっている大学院生スタッフ（チューター）を迎えて実施した「ライティングチューター座談会」での内容を取り上げます。

学部生のレポート執筆や卒業論文執筆を支援するライティングセンターの役割について、チューターの声と共にご紹介します。学部生の文章執筆支援の場として、センターをご活用ください。



お問い合わせ先

教務機構ライティングセンター（平日9:00 - 17:00）

西宮上ヶ原キャンパス大学図書館地下1階

TEL：0798-54-7459

Email：writingcenter@kwansei.ac.jp

座談会メンバーのご紹介

※所属・勤務歴は2023年1月末時点のものです。



インタビュアー：杉原 健
2022年度センター専属スタッフ



菊池 民枝 さん
経営戦略研究科
チューター歴 1年半



堀 祐輔 さん
人間福祉研究科
チューター歴 2年



山下 茉莉花 さん
社会学研究科
チューター歴 2年

杉原（以下、杉）：前回（前編）は、ライティングセンターでの支援の様子について、チューターであるみなさんの支援の工夫をお聞かせいただきました。座談会の後編である今回は、前編で取り上げられなかった、支援における考え方や苦労、工夫などについてさらに伺ってこうと思います。よろしくお願いします！

全員：よろしくお願いします！

Point 01 卒業論文のような長い文章：文章全体の構成を組み立てる支援

杉：センターでは卒業論文に対する支援もしていますね。卒論の相談は担当したことがありますか？

菊池（以下、菊）：私は1回担当しました。その時は文章が完全に完成されていなくて、相談学生さんも「まだ迷ってる..」みたいな状態だったので、**アイデア出しをしてから、一緒に構成を検討していった**気がします。

堀：私は3～4人くらい担当して、**構成や話の順序を中心に**見てコメントしていました。**全体がどこに落ちるのか（まとまっていくのか）というところは学生に聞きます**。これはレポートの際にも意識して確認するようにしていましたね。

杉：たしかに、自分の着眼点と主張を整理するというのは、レポートにも共通する点ですね。座談会カメラマン担当の中俣さん、卒論の支援は？

中俣（以下、中）：自分も何回か担当しました。ただ、学生がiPadでZoomに入室していて、文章データを画面共有機能でしか見られなかったんです。どうしても画面共有だけでは一度に目に入る部分がかなり限られてしまっ…。

山下（以下、山）：それは大変そう…。

中：事前に文章データをセンターに送ってくれれば、より良い支援ができるかなと思います。あと、長い文章だと、**流れを組み替えることで主張が成立することもある**ので、流れの支援をすることが多かったです。

杉：長い文章を支援する時には、**文章全体の構成を検討する**ということがポイントの1つになりそうですね。ライティングセンターの個別支援は「対面」と「オンライン」の2つの形態がありますが、長い文章を相談したいときは、**文章を印刷して持ってきたり、センターに文章データを送ったりするよう、学生さんに伝えることも大事**ですね。

Point 02

学生に伝えたい！ 「読み手」を意識する大切さ

山：チューターをしていると、自分の専門外の領域の文章を読むことも多く、それが**「読み手」としても刺激になります**よね。

菊：最初は全然分からないテーマのものでも、何人か同じ授業を受けてる子たちが続くとだんだんこちらも分かってきますよね。同じ授業を受けていてもこれだけとらえ方が違うんやな、っていうのがすごく面白く感じたり。

堀：そうそう。同じ課題に対して、真逆の主張を書いている場合もありますよね。

菊：私は以前、ある人から**「書き手の頭の中を体験しながら、読み手は読む」**と教わったことがあります。わりと文章全体が抽象的な学生さんも多いんですが、**「抽象的なことばで文章が切られてしまうと、読める側の体験が止まってしまっって伝わりづらいですよ」**と伝えていました。だから**「場面をイメージできるように書こう」**ということも伝えていました。

堀：うんうん。ここまで前向きに文章を理解しようとしているチューターが分からないのであれば、他の人が読んだ時もきっと（書き手の主張は）分からないよ、って思うんです。ここまで学生にはっきり伝えることはないですけど、**どんな授業だったのか、どんなことを学んだのかなどを質問してみても、読み手として話をします**。面白いなと感じた時は、相談学生に対して、「できあがったら、このレポートの続きを読みたい」って伝えています（笑）

杉：「読み手」の存在をより実感できそうですね。



座談会撮影者 中俣 旭日さん（人間福祉研究科／チューター歴 半年）

杉：下のレポートですが、チューターさんに創作していただいた「よくある相談文章」の例です。**この文章、どういうところに問題点があると思いますか？** また、この文章を書いた学生さんと、どんなやりとりを進めますか？なお、参考文献一覧は省略していますので、それ以外の点で気になった点を挙げてください。

【課題（〇〇学部基礎演習：小レポート）】
500字程度で「日常に潜む貧困」について自分の意見を論じなさい。

【相談内容】
締切：来週の月曜日（正午）
相談：とりあえず書いてみたが、何を書いたらいいのか分からなくなってきた

タイトル：フードロスと貧困について

学部1年生
△△ ■■

現在、世界的にフードロスが大きな問題となっている。農林水産省によれば、日本における年間のフードロスの量は522万トンだといわれており、その内訳は事業系食品ロス275万トン、家庭系食品ロス247万tであり、約半分が家庭の食べ残しである。私自身、大学に入学してから一人暮らしを始めて、作りすぎてしまった料理を捨ててしまうことが何度かあり、もったいないと思っていたが、大した量ではないと気にしていなかった。しかし、統計データを見ると、その総量は無視できるものではないと改めて気づかされた。それにもかかわらず日本の貧困率は約16%と低くはなく、子ども食堂や餓死事件、ホームレスの炊き出しといった食料不足に関連したニュースを聞くことも珍しくはない。日本はこうした貧しさがある一方で、フードロスのような贅沢な問題を抱えている。こうした問題を考えると、今まで私が捨ててしまった食料がそういった人々にいきわたるような仕組みが必要だと考える。今後は近くの子ども食堂やNPOなどを通じて余ってしまった食材を提供するなどの活動をしていきたいと思っている。

菊：いろいろありますが、問題点として1つあるのは、**与えられた課題とレポートのタイトルがズレている**ところですね。与えられた課題は「日常に潜む貧困」のはずなのに、「フードロスの解決」が軸になっている。

山：そうですね。与えられた課題がまた違っていたら、成立しうる内容ではあるけど。

菊：**リンゴについて聞かれているのにバナナについてしっかり書かれている、みたいな状態**ですね。

杉：問いと答えがズレる、というレポートあるあるは、座談会の前編でも話題に上がっていましたね。では、皆さんは実際の個別支援でどのように学生と対話を重ねていきますか？

菊：私なら、「**この文章の中で1番言いたいのは何？**」って聞きます。そしてズレに気づいてもらう。「**課題文や自分のたてたテーマを書いて、常にレポートの横に置いておこう**」とかも言います。私も文章を書いていると、自分のたてたテーマなのに、いつの間にか忘れて書き進めてるし（笑）

山：私も問いと答えがズレていることに気づかせるよう声掛けをします。それで「**じゃあ、こんな展開にしているのはどう？**」と一緒に考えます。

堀：私は、この**文章の中身に触れる前に、レポート執筆について基礎的な話をする**と思います。相談に「何を書いたらいいのか分からなくなってきた」とあるので、レポートがどういうものなのかを伝えるかな。

山：そういうアプローチもあるか。

杉：それぞれのアプローチや進め方の違いはあれど、**皆さん、学生さんたちに自発的に気づいて学んでもらいたい、というライティング支援における理念は共通している**ことが伝わります。より多くの学生さんたちに「書く」ことを楽しみながら学んでほしいですね。

菊：そうですね。**書くこと、自分を表現することは楽しい**ってことに気づいてもらいたいです。

本学のチューターと他大学チューター間での交流



昨年度（2022年度）は、神戸大学「留学生のための日本語アカデミックライティングラボ」のチューターの方々と交流会を実施しました。

持ち込まれる文章の種類や利用学生の属性（分野や学部・大学院の別など）によって互いに様々な課題を抱え、どのような工夫を凝らしているか議論が弾んでいました。

【センターの個別支援の利用にあたってのお願い】と【利用方法】

●センターの個別支援の利用を伴う課題を授業で課す場合は、事前にセンターまでご相談ください

センターの個別支援の利用を授業課題（特に必須の課題）とした場合、セッション数の都合上、センターを利用したくても利用できない学生が発生する可能性がございます。また、他の科目受講者や卒業論文を執筆する学生がセンターを予約できない状況も発生する可能性があります。

授業の課題としてセンター利用を課すことを検討されている場合には、表紙（p.1）に記載の連絡先まで、事前にご相談いただきますようお願いいたします。

●ライティング個別支援の利用方法

1. LINE（図書館内のセンターチラシに掲載）やkwic、右のQRコードから予約できます。
2. 予約フォームで希望の時間（1コマ45分）と形態（対面 or オンライン）を選べます。
※相談時間に空きがあった場合は、予約なしの飛び込み利用も可能
3. 予約完了後、学生は事前情報登録フォームで課題締切などの基礎情報を送信できます。



対面セッション

チューターと直接会って、セッションを進められます



オンラインセッション

上ケ原キャンパスに来ることが難しい人もZoomで支援を受けられます

学生対象のライティング講座関連のイベントを開催しました

●授業への出張講座（30分）を行いました

- 出張講座の内容 : リポート執筆の基礎(パラグラフィティング)に関する講座20分 + センター紹介10分
- 実施形態 : 1) 授業にセンター関係者が出向き、講座を実施する
2) センターが作成したオンデマンド型資料を担当教員が受け取り、講座を実施する

この講座は、センター助手やセンターで活躍するチューターが講師となり、リポートの基礎に関するレクチャーを実施します。基礎ゼミを担当されている先生方や、卒業論文の執筆を控えた学生を指導されている先生方から依頼を受け、上記のいずれかの方法で講座を実施しています。なお、多くの先生方からご依頼をいただいた場合には、実施形態2)での実施をご案内させていただく予定です。

出張講座の実施をご希望の先生は、1) 対象者や人数、2) 実施希望時期 を記載の上、表紙（p.1）に記載の連絡先まで一度ご相談ください。

●学生（院生も可）を対象としたワンポイントセミナー（60分～90分）を行いました

- セミナーの内容 : 序論・本論・結論の書き方、引用・参考文献の書き方 など
- 実施時期 : 不定期開催（LINEとkwicにて案内）
- 実施形態 : 対面またはオンライン（実施回によって異なる）

これまでのワンポイントセミナーでは、リポート執筆に必要な構成・表現・形式に関するポイントを取り上げました。多くの学生が参加できるよう、セミナーは17:00以降に実施しています。

なお、より体系的にライティングについて学びたい学部生には、「スタディスキルセミナー（リポート執筆の基礎）」の受講を、院生には「論文執筆のためのアカデミックライティング」の受講を推奨しています。

教職員対象のFD研修を開催しました

●各部局へのお出張型FD研修を実施しました

2022年度は神学部のFD研修を実施し、本学学生が抱えるリポート課題について教員らと意見交換をおこないました。**各部局でのFD研修において本学のライティング教育に関する内容を扱うことを検討されている場合には、表紙（p.1）に記載の連絡先までご相談ください。**

●新任教員向けFD研修を実施しました

2022年度～2023年度の春に開催された新任教員向けFD研修では、センターでの個別支援の取り組みや、開講科目（スタディスキルセミナー（リポート執筆の基礎）、論文執筆のためのアカデミックライティング）に関する情報提供を行い、学内でのセンター利用案内の周知を行いました。